

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松日産自動車株式会社 浜松工場	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市浜北区小松1751,1753	構造	S造
用途地域	用途地域 指定なし、防火地域 指定	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年12月6日
敷地面積	3,549 m ²	作成者	長田 幸将
建築面積	2,026 m ²	確認日	2021年12月28日
延床面積	2,026 m ²	確認者	秦 孝之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	CASBEE 静岡 2016 年版による評価結果 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。	
その他	特になし。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	[壁長さ比率] < 0.1	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.93。	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	燃焼機器を使用しません。 広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。 光害対策ガイドラインの項目の一部を満たす。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)浜松日産自動車株式会社 浜北小松店新築工事	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.1	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水VLP(B)、排水VP(B)、消火SGP-自(C)、Eは不使用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPI_m=0.93。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。⑫LGS使用している。⑬発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO₂排出率87% 	Q-1 2 2.1 2.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	② 外皮性能 ③ 昼光利用設備 ④ 昼光制御 ⑤ 躯体材料の耐用年数 ⑥ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑦ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑧ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑨ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑩ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑪ 生物環境の保全と創出 ⑫ 敷地内温熱環境の向上 ⑬ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑭ 自然エネルギー利用 ⑮ 設備システムの高効率化 ⑯ モニタリング ⑰ 運用管理体制 ⑱ 節水 ⑲ 雨水利用システム導入の有無 ⑳ 雑排水等利用システム導入の有無 ㉑ 材料使用量の削減 ㉒ 既存建築躯体等の継続使用 ㉓ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉔ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉕ 持続可能な森林から産出された木材 ㉖ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉗ 有害物質を含まない材料の使用 ㉘ 消火剤 ㉙ 断熱材 ㉚ 冷媒 ㉛ 地球温暖化への配慮 ㉜ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑲ 電気設備 ⑲ 機械・配管支持方法 ⑲ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 特になし。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし。 	Q-3 1 ⑵ 2 ⑶ 3 3.2 ④ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑵ 生物環境の保全と創出 ⑶ まちなみ景観への配慮 ④ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		